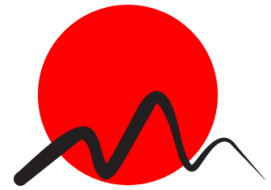


Slovenia Monthly January 2017 vol.3-no.1

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2017年2月10日



～1月の主なポイント～

- 政治:** 政府、重点課題となっている医療・健康保険制度の改革案を発表。
国民議会、難民問題対策強化のため外国人法改正案を採択。
ジョンソン英外相がスロベニアを訪問し、Brexitや西バルカン情勢について協議。
- 経済:** 安川電機、新規ロボット製造工場の立地を南部コチェヴェイ市に決定。
2016年の観光客数が前年比9.4%の大幅増を記録し、観光産業は引き続き好調を維持。
政府、新リュブリャナ銀行(NLB)の年内民営化の方針を改めて示唆。
- 軍事:** 政府、ラトビアに展開するNATO軍へのスロベニア軍人派遣を決定。
- 社会:** スロベニアハンドボールチーム、世界選手権で団体競技初となるメダルを獲得。

政治

【内政】

●法人税を引き上げる税制改正が発効【1日】

昨年10月に国会で可決された小規模税制改正が発効した。新税制では、中間層の純収入の増加を目指して所得税率区分が細分化され、一方で、法人税率は17%から19%に引き上げられた。

●スロベニア国内での鳥インフルエンザ発生【4日・8日】

4日、スロベニア食料安全・動植物衛生庁は、スロベニア北東部のプラゲルスコ(Pragersko)にて30日～1日に見つかった3羽の白鳥の死体からH5N8型の鳥インフルエンザウイルスが検出されたと発表した。また8日には、マリボルで見つかった白鳥の死体から国内2例目となる鳥インフルエンザウイルスが検出された。ウイルスの人への感染の恐れはないが、同型のウイルスはハンガリー、クロアチア及びオーストリア等すべての近隣諸国で見ついている。

●スロベニアの国家承認25周年記念式典の開催【13日】

1992年1月15日の欧州17カ国によるスロベニア国家承認に合わせ、スロベニア国家承認25周年

を記念する式典が開催された。エリヤヴェツ外相は開会スピーチにて、「スロベニアの歩みは長く、成功に満ちたものであった。スロベニアにとって非常に重要な出来事はEU加盟であり、スロベニアはすべての加盟国に対する同一規則の適用及び一致した政策決定を支持している」と述べ、EUの課題として財政・経済危機からの回復、難民問題及び英国のEU離脱を挙げた。

その後、クーチャン初代大統領、ペテルレ初代首相及びルーペル初代外相等による討論が行われ、現在のスロベニアでは独立時の原則や価値観が失われており、EU内でも存在感を示せていない等の指摘がなされた。

●医療・健康保険制度改革案の発表【19日】

コラル＝ツェラルツ保健大臣は、政府の重点課題となっている医療・健康保険制度の改革案を発表した。本制度改革では、収入に応じて負担する新たな強制加入健康保険が導入され、約80%の国民の保険料は減額されるとしている。また、病気休暇は、現行制度では無制限に認められていたが、最長1年または2年間で最大18か月に制限される。

政府は本改革案の国会での年内採択を目指し、明年から2022年にかけて新制度への段階的な移行を予定している。

●国会が難民問題対策強化のため外国人法改正案を採択【26日】

国民議会は、難民の大量流入等の非常事態時に、警察に対し時限的に不法移民の入国拒否と送還の権利を付与する外国人法改正案を採択した。

同改正案によると、内務省が難民流入による国内の法秩序及び治安に対する脅威が発生していると判断した場合、政府は内務省の要請を受け、国民議会に対し、延長可能性のある6か月限定の特別措置の採択を要請する。国民議会は全議員の過半数の賛成により、同特別措置の実行を決定する。

同特別措置では、警察は、事前に限定された区域において、入国基準を満たさない移民の入国拒否及び国内に既に不法入国した移民の送還を行うことが可能となる。入国基準を満たさない者が難民申請を希望した場合には、警察が同申請者の身分確認を行うと定められており、難民申請者の健康状態が悪い場合、または身内のいない未成年の場合には適用されない。

スロベニアに迫る！③

2016年を象徴する言葉は「難民」に

フラン・ラモウシュ研究所は、ネット上で2016年を象徴する言葉のアンケートを行い、候補となった10の言葉の中から「難民(begunec)」が選ばれました。他の候補は、「トランプイズム(Trumpism)」、「株主」、「家族」、「健康」などでした。同研究所のゴムバチ氏は、「難民」が選ばれたことは、スロベニア社会で人権の尊重や連帯がまだ重要な役割を果たしていることを意味していると述べました。

難民問題に関しては、2015年10月から2016年3月までに約47万8千人の難民がスロベニアに流入しました。昨年3月のEU・トルコ間の合意を受け、スロベニア政府はシェンゲン規則の完全適用を再開し、現在は難民の流入が落ち着いていますが、たびたび不法越境が報告されています。

スロベニア政府は、再度の難民流入に備えて、対クロアチア国境のフェンス設置などの対策をすすめ、27日には国民議会が外国人法改正案を採択しました。また、オーストリア当局が対スロベニア国境で行っている国境審査の期限は2月中旬で失効しますが、11日、欧州委は同審査の延長を容認する姿勢を示しています。シェンゲン地域の「人の移動の自由」が完全に復活するまでにはもうしばらく時間がかかりそうです。

【外政】

●ジョンソン英外相のスロベニア訪問【11日】

ジョンソン英外相はスロベニアを訪問し、エリヤヴェツ外相と会談を行い、両国の外交関係樹立25周年を記念する式典に出席した。両外相は、西バルカン情勢や二国間関係について議論し、更なる経済協力強化を目指すことで合意した。ジョンソン外相は、英国のEU離脱に関し、英国は欧州を弱体化や崩壊させることは望んでおらず、むしろ協力的な立場であると強調した。

またジョンソン外相は、パホル大統領及びツェラル首相とも会談し、ビジネス分野を中心に一層の関係緊密化を要請した。

●エリヤヴェツ外相の中東和平に関する国際会議出席【15日】

エリヤヴェツ外相は、パリで開催された中東和平に関する国際会議に出席し、イスラエル・パレスチナ間の問題解決における「2つの国家」の概念を支持するとの立場を明らかにした。同外相は、「パレスチナ人が将来の展望を見いだせない現状は、どの当事者にとっても有益なものではない」と述べ、「我々は政治問題の解決だけではなく、新たな現実の中で生活する青年層の支援に焦点を当てるべきである」との考えを示した。

●ジダン農相のロシア訪問【16日・17日】

ジダン農林食糧大臣はロシアを訪問し、16日、トゥカチョフ・ロシア農業大臣と会談を行った。会談には複数のスロベニア企業の代表が同席し、ロシアへの投資を含めた具体的な活動を提案した。

17日、ジダン農相はニキフォロフ・ロシア通信メディア大臣と会談し、両大臣は通信及び技術分野での良好な二国間協力を確認した。

●政府がITFのプロジェクト支援契約に署名【20日】

スロベニア政府はITF(人間の安全保障強化のための国際信託基金)との間で、今後2年間で74万ユーロを拠出し、8つのプロジェクトを支援する契約に署名した。具体的な支援プロジェクトとしては、ウクライナ紛争で被害を受けた子供達の精神的リハビリ、ベラルーシ及びガザの子供達のリハビリ、シリア難民に対する対人地雷の啓蒙活動等が挙げられている。

●ツェラル首相のチェコ訪問【23日】

チェコを公式訪問したツェラル首相は、ソボトカ首相と会談し、二国間協力や難民問題、バルカン情勢等の国際問題につき意見交換を行った。両首相は、コペル港の活用等、ロジスティクス分野における協力についても協議し、両国はコペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業へのチェコの参入の可能性につき検討することで合意した。

更に両首相は、チェコがスロベニアの加入を支持しているV4(ヴィシェグラード・グループ)を含めた両国間の政治対話の進捗状況についても意見交換を行い、国際場裏における両国の協力を賞賛した。

●ツェラル首相のポーランド訪問【24日】

ツェラル首相はポーランドを実務訪問し、シドゥウオ首相と会談を行った。ツェラル首相は、両国の関係は二国間レベル、EU及びV4の枠組みでの協力を通じ、非常に良好であるとし、経済面ではポーランドは第7位の貿易パートナーであるが、更なる協力の余地があると述べた。

また両首相は、難民問題について、難民の発生国における効果的な行動が必要であり、その次のステップとしてはEU域外との国境において不法移民の流入を阻止することが重要であるとの認識で一致した。

経済

【マクロ経済・統計】

●2016年財政赤字が当初予算案から大幅減【17日】

スロベニア財務省は、2016年財政赤字の速報値を発表し、財政赤字は予算案での8億3900万ユーロを大きく下回る6億8900万ユーロであった。昨年の歳入は予算案を4%以上下回る83億1000万ユーロであったが、歳出が予算案を15%下回る90億ユーロであったため、結果的に財政赤字が縮小する形となった。

●2016年も観光産業は好調【31日】

スロベニア統計局は2016年の観光客数に関する統計の速報値を発表し、2016年の観光客数は、人数ベースで前年比9.4%増、宿泊数ベースで7.6%増を記録した。特に外国人旅行者の増加が大きく、人数ベースで11.4%、宿泊数で10.3%増加した。スロベニアへの観光客は、イタリア(全体の36.9%)、オーストリア(同11.9%)、クロアチア(同8.

6%)からが多く、一方で、日本からの観光客は対前年比78.9%にとどまった。

スロベニアに迫る！④

スロベニア人のトヨタ・ドイツ社長

トヨタと言えば日本が誇る自動車産業大手ですが、実は現在、トヨタ・ドイツ社の社長はスロベニア人が務めています。トム・フックス(Tom Fux)氏は、2014年に43歳という若さでトヨタ・ドイツ社の最年少社長に就任しました。1998年にトヨタに入社後、出世街道をひた走り、重要ポストをそれぞれ最年少で務めました。2008年には経済危機が発生し、販売戦略を担う彼の決定が会社の存続を左右する重要局面を迎えますが、持ち前の分析力と判断力でうまく乗り切り、その結果、トヨタ経営陣は2010年にフックス氏をトヨタ・ヨーロッパの販売企画部長に任命しました。また、急激な円高が日本の自動車産業を襲いましたが、こちらもうまく切り抜け、以降はドイツ市場で活躍しています。

フックス社長は自らを「理論の人」と呼び、部下からも尊敬を集めています。「私は好かれるためではなく、尊敬されるためにここにいる。尊敬は肩書きではなく、結果や働きぶりから来るものだ。人気を得るために何かをしたことはないが、尊敬を勝ち得るために多くのことをし、結果として人気がついてきたのである」との言葉にはフックス社長の人柄が表れています。(本内容は、ヴェチエル紙掲載の Matej Štakul 記者による同社長へのインタビュー記事を元に作成したものです。)



(写真提供: Matejaž Rušt/ヴェチエル(Večer)紙)

【金融・企業関係】

●マグナ・シュタイヤー社が新規投資を決定【17日】

マグナ・インターナショナル社のウォーカー社長は、同社傘下のマグナ・シュタイヤー社が、マリボル近郊に400名の従業員を有する塗装工場を設置することを決定し、2017年後半に工事を開始する旨発表し

た。マグナ欧州社の社長から電話連絡を受けたツェラル首相は「この第一フェーズがしっかりと実行されれば、更なる協力拡大が期待出来るであろう」と述べ、カンタルティ経済開発・技術副大臣も、「対スロベニア投資の第一フェーズの実施を確認したことはよいニュースであり、将来的に残りのフェーズも実行に移されるものと期待している」と述べた。

●安川電機が新規工場の立地を決定【17日、30日】

17日、安川電機は、新たなロボット製造拠点を南部のコチェヴィエ(Kočevje)市に設置することを決定し、プレブリッチ同市市長は、同社から用地買収の意図を表明する書簡を受領したことを確認した。同市長によれば生産拠点は、コチェヴィエ産業ゾーンの近くに建設され、本年夏にも工事が開始される見通しである。安川電機は2018年末までに工事を完了させ、2019年に製造開始を予定している。(安川電機による新規投資については2016年10月号ご参照)

30日、ツェラル首相、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣及びガシュベルシツ・インフラ大臣は、コチェヴィエ市を訪問し、シュタイン・欧州安川電機社長と面談した。ツェラル首相は、スロベニア政府は本件投資誘致のために多大な努力をしてきたと述べ、同社従業員の職業訓練施設を開設すると発表した。



(写真:スロベニア政府広報局/Anže Malovrh/STA)

●優良IT企業「Outfit 7」社の売却【20日】

携帯アプリの「Talking Tom」で知られるスロベニアのIT企業「Outfit 7」(本社は英及びキプロス)が中国の「United Luck Group Holding」が代表する投資家のコンソーシアムに10億ユーロで売却された。「Outfit 7」社は、2009年にイザ・ロギン氏及びサモ・ロギン氏により設立され、両氏ともスロベニア長者番付で上位を獲得している。同社の2015年の売り上

げは108億ユーロ、営業利益は80億ユーロであり、株主に74億ユーロを配当した。

●政府が改めて新リュブリャナ銀行の年内民営化を示唆【20日】

ヴラニチャル＝エルマン財相は、ヴェスタゲル競争政策担当欧州委員と会談し、両者は新リュブリャナ銀行(NLB)の年内民営化を目指すことを確認した。欧州委は、2013年に同銀行を2017年末までに民営化することを条件に、政府の銀行救済措置を承認しており、当地メディアでは同期限の延長を申請するとの見方が広がっていたが、ヴラニチャル＝エルマン財相は当初計画を尊重し、民営化手続きを継続するとの方針を示した。

軍事

●ラトビアに展開するNATO軍へのスロベニア軍人派遣決定【19日】

スロベニア政府は、ラトビアに展開するNATOのEFP(Enhanced Forward Presence of NATO)部隊に50名の軍人を派遣することを決定した。

EFPは2016年のNATOワルシャワ首脳会合で創設が決定され、エストニア、ラトビア、リトアニア及びポーランドに展開する予定となっている。

スロベニアの軍人は、1000名から1200名で構成される部隊において、カナダの指揮下に入り、派遣時期は本年5月又は7月で、年末までの派遣が予定されている。

社会・文化・スポーツ

●スキージャンプW杯でスロベニアチームが第3位【21日】

ポーランドのザコパネで開催されたスキージャンプW杯の団体戦にて、1位のドイツ、2位ポーランドに続き、スロベニアチームが3位を獲得した。ペテル・プレウツ(Peter Prevc)選手、弟のドメン・プレウツ(Domen Prevc)選手、イェルネイ・ダムヤン(Jernej Damjan)選手とユリー・テペシュ(Jurij Tepeš)選手の4名がスロベニアチームとして今回の大会に出場した。

●ハンドボールチームが銅メダルを獲得【29日】

11日から29日にかけて開催された第25回男子ハンドボール世界選手権にて、スロベニアチームは、3位決定戦でクロアチアを31対30で破り、第3位と

なった。スロベニアは、歴史上初となる世界大会でのチームスポーツのメダル獲得となった。今回の大会には24チームが出場し、優勝はフランス、第2位はノルウェーであった。

●スロベニアはリサイクル先進国【31日】

欧州統計局は、2015年のEU各国のリサイクル率に関する統計を発表し、スロベニアのリサイクル率は54.1%で第3位となった。第1位はドイツの66.1%、第2位はオーストリアの56%で、EU平均は45%であった。EUは、各国がリサイクル率を2020年までに50%以上とすることを目標に課しており、現時点では6カ国のみが本目標を達成している。

スロベニアに迫る！④

芸術家の最高栄誉、プレシェーレン賞

プレシェーレン賞は、スロベニアの国民的詩人であるフランツェ・プレシェーレン(France Prešeren)の名を冠する国内で最高の芸術賞で、芸術家の文化的功績を称え、生涯に1度だけ授与されます。授賞式はプレシェーレンの命日である2月8日に開催され、この日はスロベニア文化の日として祝日に定められています。(今年の授賞式は2月7日)

1991年以降は音楽、文学、美術及び舞台芸術の分野から合わせて毎年2名まで受賞者が選出されています。1947年のプレシェーレン賞の創設以降、338名の受賞者がおり、リュブリャナの三本橋や中央市場を設計した建築家、ヨジエ・プレチュニク(Jože Plečnik)も受賞者の1人です。

17日、今年の受賞者が発表され、画家でありグラフィックアーティストであるメトカ・クラショヴェツ(Metka Krašovec)氏と、翻訳家、作家、文芸評論家のアレシュ・ベルゲル(Aleš Berger)氏が選ばれました。

受賞者の経歴や活動は2月号にてご紹介します。

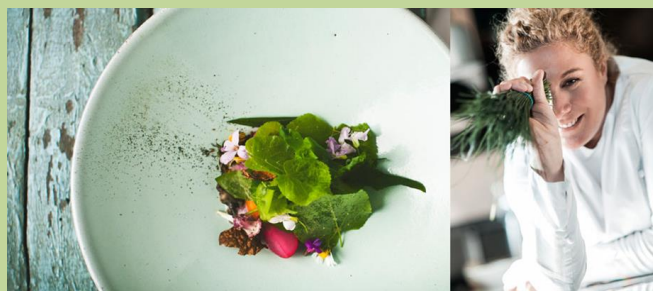
発見！スロベニア

世界最高の女性シェフ

英国の料理ポータルサイト The World's 50 Best Restaurants により、スロベニア西部のイタリア国境近くの街、コバリド(Kobarid)にあるレストラン、ヒシャ・フランコ(Hiša Franko)のシェフであるアナ・ロシュ(Ana Roš)さんが、「世界一の女性シェフ(The World's Best Female Chef)」に選ばれました。授賞式は4月5日にオーストラリアのメルボルンで開催されます。

ロシュさんは、ヒシャ・フランコの厨房に立つまで調理師としての訓練を積んだことはなく、レストラン経営の経験もありませんでしたが、Netflix のヒットシリーズである「シェフのテーブル(Chef's Table)」への出演をきっかけに、スロベニア料理を有名にしたとして、同業者の投票により世界一の女性シェフとして選出されました。また、ロシュさんは、スロベニアにはミシュランの星を獲得したレストランがなく、隣国のイタリアやオーストリアの陰に隠れていた中で、自身のレストランを世界的に有名にし、シェフとしても世界のトップシェフの中で地位を築いたと評価されています。

ヒシャ・フランコは緑豊かなソチャ渓谷を見下ろす牧歌的な田舎に位置するこぢんまりとした家族経営のレストランで、ロシュさんがユニークなコースメニューを提供し、世界中から訪れるお客を魅了しています。



(The world's 50 Best Restaurant ホームページより)
<http://www.theworlds50best.com/awards/best-female-chef>



(レストラン Hiša Franko ホームページより)
<http://www.hisafranko.com/en/anas-kitchen/philosophy/>

佐藤シェフの和食レストラン「佐藤弁当」

リュブリャナ在住の佐藤真シェフのレストラン「佐藤弁当」がデロ紙日曜版の「GOSTILNA」(レストラン紹介コーナー)にて紹介され、5段階評価中で4の高評価を獲得しました。以下は同記事の概要です：

「佐藤弁当」はいつも満員で、ランチタイムにはラーメンやお寿司、夕食時にはシェフのおまかせコースが提供される魅力的なレストランだ。食材は新鮮で、腕の確かな日本人シェフが、夕食時には6品のコースをリュブリャナで最も安い値段で提供している。これが、立地に恵まれていなくても「佐藤弁当」がリュブリャナで人気の理由である。佐藤シェフは伝統を守りつつ、創造的な日替わり料理を準備している。

また、このレストランはケータリングやお弁当の配達も行っている。リュブリャナにはより広くて、高評価

を獲得しているレストランはたくさんあるが、一度「佐藤弁当」を訪れば、本格的な料理や情熱的なシェフには、そのような飾りは必要ないと実感することができるだろう。



(写真提供：Uroš Mencinger/デロ紙日曜版「NeDelo」)

在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

当館のフェイスブックでは、スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせやレポート、スロベニア事情等の情報を随時発信しております。「いいね！」ボタンで当ページのフォローをよろしくお願いします。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★当館ホームページに「もっと知りたい！スロベニア」を開設しました！

この度、ホームページに当館作成のスロベニアの政治・経済に関する資料や地方都市ガイドを掲載した「もっと知りたい！スロベニア」を開設しました。トップページから移動できますので、ぜひご覧ください。

【文化行事のお知らせ】

●山海塾公演「海の賑わい 陸(おか)の静寂 - めぐり」

1975年に主宰・天児牛大(あまがつ うしお)氏によって創設された日本を代表する舞踏カンパニー・山海塾による舞踏公演。身体言語に基づく独自の表現形態は、作品の普遍性とともにより世界各国で高い評価を得ています。今回の演目は、2015年3月に北九州で初演された最新作「めぐり」です。

日時: 2月27日(月)及び28日(火) 20:00～

会場: ツァンカリエウ・ドム ガルス・ホール

(Cankarjev dom / Gallus hall 住所: Prešernova cesta 10, Ljubljana)

要予約(有料) 予約方法及び公演詳細はウェブサイトにてご確認ください。

ウェブサイト: <https://www.cd-cc.si/en/theater-and-dance/meguri-7652>

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

たびレジには「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●すり被害が急増しています！

最近、リュブリャナ中心部にて、日本人観光客のすり被害が非常に多く発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ鉄道駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。

貴重品は背負ったカバンには絶対に入れないようにし、何か異変を感じたらすぐに確認してください。

●インフルエンザが流行しています！

リュブリャナ総合病院によりますと、現在当国ではインフルエンザが流行しており、今後更なる患者数の増加が予想されています。体調管理には十分ご注意ください。